

おお大勝利

平成 31 年度 / 令和元年度 山東サッカー部報第 2 号 (4 月 16 日)

サッカー部保護者の皆様、OB・OGの皆様、日頃より本校サッカー部の活動にご理解とご協力を賜りまして、感謝申し上げます。

シーズン開幕戦 羽黒Bに勝利

4 月 14 日 (日) Y2A 第 1 節が行われ、山東はシーズン初戦として羽黒 B と戦いました。羽黒 B と言えば昨年県リーグで初めて対戦し、**その前の節で上り調子だった山東をパスワークで翻弄した相手**。「A に負けていいという訳ではないが、(せめて) B には負けたくない (だってこっちは A なんだから)」という気持ちはあったが、気持ちだけでは埋められない差を感じた。もちろんスキルの差はあっても、スコアを 2 対 3 の僅差に持ち込んだのは去年のタレントのゆえだが、上り調子のまま県総体まで行って、県リーグの前期優勝も果たしたいという願望が実質的に打ち砕かれた試合だった。当然リーグ初戦の相手が羽黒 B と決まってから、去年を知る者としては嫌な感触があった。一昨年チームと昨年チームとの差、昨年チームと今年チームとの差を考えれば、2017 年は Y1 で羽黒 A に惜敗 (1 対 2 の逆転負け)、2018 年は Y2 で羽黒 B に惜敗、**2019 年は羽黒 B に・・・大敗、なんて弱気予想も現実的に思えた**。そして、泣いても笑っても、シーズン開幕の時がやってきた。

さて当日、**高橋コーチ、小池新コーチ、御松新顧問**が揃うとともに、**清野総監督 (後援会名誉会長)、後藤報道局長 (後援会 HP 管理人)**も当然のようにいらっしゃる。清野さん、心なしか表情が朗らかに見える。シーズン開幕が待ち遠しかったかのようにお見受けした。「どうだ、今年のチームは？」なんて聞かれましたが、芳しい答えができなかった。それもそのはず。遠征では散々で、帰ってきてからも勝ててない。内容も崩れるような試合ばかりで、手応えを感じてのシーズンインではなかった。そんな中であっても、**保護者の数は例年ながら素晴らしい**。部員数の多いチームの保護者の応援が多くなるのは当然だが、人数の少ないチーム¹でこれだけ揃うのは稀ではないか。**せめて、OBOG、保護者の皆様が手に汗握る試合はしたいところ。もちろん勝ちを目指しますが、その前の段階の試合 (粘りのない大量失点の試合) が多かったので、まずは粘りを見せてほしいと思っていた**。

スタメンには、**遠征で救急搬送された 3 年 GK イグラ**が名を連ねる。何とか (?) 間に合った (同日に故障した**山辺の星パート 2 の 3 年ダイキ**は、もうしばらくお待ちください)。そしてイグラの前に並ぶのは、新 2 年生 DF4 名。試合が始まると、MF・FW はいい加減なミスが目立つが守備意識は高いし、GK イグラのプレスキック²のパンチ力、DF の大きなクリア・フィードもあり、相手を押し込むことができている。この試合、**自分たちがボールを持つのではなく、まず相手に (低い位置で / 相手ゴールに近いところで) ボールを持たせて、山東が守備から入る**という試合展開を望んでいたが、まさにそのゲームプラン通りの前半。相手選手のボール保持にしつこく絡んだり、複数人で取り囲んだり、鋭い出足で相手の前に入りパスインターセプトしたり、素早い寄せでトラップ際のボールを奪ったり、守備で大事なことができている。せ

¹ 新 2・3 年生で、総勢 25 名 (うちマネージャー 2 名、休部者 1 名)。

² ボールを (持ってではなく) 置いて蹴ること。

っかく奪ったボールをまた簡単に失うものの、守備意識が高いため、相手に持ち味を出させない。今日の山東、「自分たちは下手なんだから、贅沢なんて言わずに、下手さに見合った守備を泥臭くするしかない」と割り切れている。そう、この日の山東、泥臭かった！ 一方で「上手くなる、巧くなる」ことは重要でその追求は忘れてはいけないが、他方で「今できない現実を受け入れ次善の策を泥臭く実行する」こともまた、勝負に必要な事柄。そんな「ボールは羽黒、試合は山東」の展開の中で、個性派俳優 3 年 MF 上野がルーズボールに体をねじ込み、思わず後ろから押した相手から FK を獲得する（羽黒ペナルティエリア右外³）。それをサッカーにおいては根っからの労働者階級 3 年 MF ノブが、監督の打ち合わせに反して！ 怪しく転がすと、ゴールまで混戦発生。そのボールを背中で語るキャプテン 3 年 MF ニコラスことシオンが豪快に蹴り込み、山東先制！！ 流れが悪くなかったので、ここで取りたかったところで得点も取れた。その後も、狙いのショートカウンターから、陵南の膝神 3 年 FW アキシンことシゴが GK をかわしてシュートを放つもバーに嫌われ、そのボールを拾った黒豹へと変身中 3 年 FW オサことオサイリスがまたもやバーに当てる妙技を見せるなど、山東追加点取れそうで取れないまま前半 1 対 0 で終了。

ベンチでは高橋コーチと「1 点では足りないね」と話になる。「この展開ならもっと点を取るべき、1 点では足りない」のではなく、「このチーム、1 対 0 で勝てるわけがない、1 点だけでは勝てない」という意味。後半、追加点が勝利への鍵となる。実は私、試合前、羽黒 B の実力はわからないが大体の予想で「1 失点は仕方ない、2 点取らなきゃ勝てないぞ」と選手に伝えるつもりだった。しかし、すぐ 2 失点したら選手はどう思うんだろう。「もう終わりか（監督の想定でも）」なんて思うのかもしれない。だから「2 失点は仕方ない、3 点取らなきゃ勝てない」と選手に伝えようとしていた。もちろん「3 得点はハードル高いな～」と思いつつ、2 失点してもあきらめない心構えを説くつもりだった。しかし、その前の試合を、久しぶりに主審で裁いて、心身ともに疲労困憊。そんなことはすっかり忘れていた。ともかく、この試合、複数得点取らなきゃ勝てない。

後半も、当初は風上に乗ってロングボールを飛ばす山東の試合展開、悪くない。ボールを保持する、つなぐという面では全くダメダメだが、「守備から入ってショートカウンター」という試合になっている。そんな試合の中、オサが粘ったボールが羽黒ゴール前でルーズボールとなり、それをノブが相手より先に蹴り上げると、相手に当たったボールが GK の頭上をふわりと越えゴールに吸い込まれる。待望の追加点ゲット！！ その後、逆に、山東の悪い奪われ方から、羽黒のワイドな攻撃をたびたび許し、アタッカーにゴールに迫られる危ない時間が続く。後半の後半は何度かヒヤッとさせられるも、運よく？ ゴールを割らせず。ノブの惜しいドリブルシュートがあるなど、山東にもチャンスがありましたが、後半の後半は明らかに羽黒のゲーム。そんな中、試合を閉めるために投入されたのは、その日魅惑のドリブルを封じた 3 年副主将タケチャンことホンマ。しかし残り 3 分くらいでとうとう失点してしまい、1 点差に迫られる。やはり 1 対 0 なんて、このチームまだ早い。その後、アディショナルタイムも含め、何とか粘り切り、山東シーズン開幕戦を 2 対 1 の勝利で飾る。

選手はしぶとく戦ってくれました。課題はたくさんあろうが、一生懸命頑張る姿は OBOG・保護者の方にお見せできたのではないかな。それだけで、第一関門突破です。応援ありがとうございました。次節は、野球と同日決戦の東南定期戦です。またも応援、よろしくお願いします。
4 月 20 日（土）Y2A 第 2 節 VS 山形南 @山形中央 G 12:30~

³ 山東ゴールから見て、右外。